

千歳市立千歳中学校

全校生徒数：536名 実施学年：全学年

端末持ち帰りモデル

デバイス : Chromebook
OS : ChromeOS
学習eポータル : まなびポケット
アプリ : ミライシード

■ 取組の方法

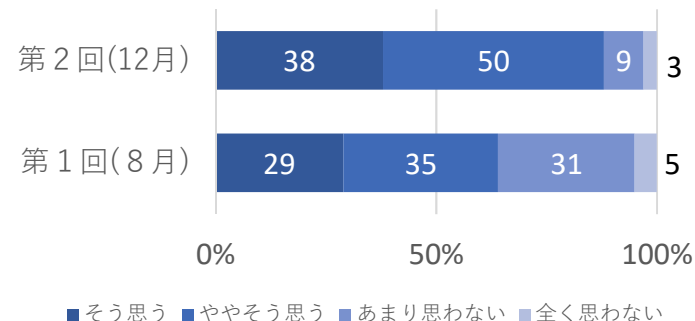
- 全ての生徒が「まなびポケット」を活用した学習に慣れることをねらいとして、端末を平時においても持ち帰りできる体制を整備した。
- 生徒は、各教科等の課題やデジタルドリルを活用した学習に取り組むとともに、生徒会活動や委員会活動における資料作成等に端末を活用した。
- 校内のICTプロジェクトチームが家庭における端末の活用に係る約束を作成し、全家庭に配付した。
- 冬季休業中は、デジタルドリルを活用した学び直しを推奨するとともに、教員が学習履歴を確認するなど、生徒の活用状況を把握した。
- 生徒は、年間を通して活用している「Myゴール手帳」に、日常の生活リズムのチェックと端末活用状況を記録した。
- 校内では、学習した内容等の定着を目的とした退職教員等外部人材講師による放課後学習をデジタルドリルを用いて実施した。

【Myゴール手帳の記録】

■ 生徒の変容

- 12月に第1学年を対象に実施した生徒アンケートの「端末の持ち帰りは、学習習慣の定着や学習内容の定着に役立つと思う」の項目において、肯定的な回答をした生徒の割合は、8月の64%から88%となり、24%増加した。
- 11月頃から、授業におけるICT活用の場面において、生徒が自分の考えを積極的に入力する様子が多く見られるようになるなど、家庭における端末活用が授業改善につながった。

「端末の持ち帰りは、学習習慣の定着や学習内容の定着に役立つと思う」



北広島市立西部中学校

全校生徒数： 141名 実施学年：全学年

端末持ち帰りモデル

デバイス : Chromebook
OS : ChromeOS
学習eポータル : まなびポケット
アプリ : Google Workspace for Education

■ 取組の方法

- ・長期休業中に、「スプレッドシート」を活用し、休業中の計画表及び学習記録を毎日記録させた。
- ・「スプレッドシート」には、学習した教科や時間を入力するだけでなく、学習の取組について振り返りのコメントを入力できるようにした。
- ・共同編集者である学級担任や教科担任が、生徒が記入した内容を確認するとともに、生徒の質問に答えたり、学習を支援するコメントを入力したりするなど、生徒の学習の意欲を高めるよう、工夫した。
- ・校内研修において、端末の持ち帰りにより、生徒の学習の課題を見取れることや、課題のアドバイスやヒントを追加発信できることなど、活用方法のよさについて共通理解を図った。

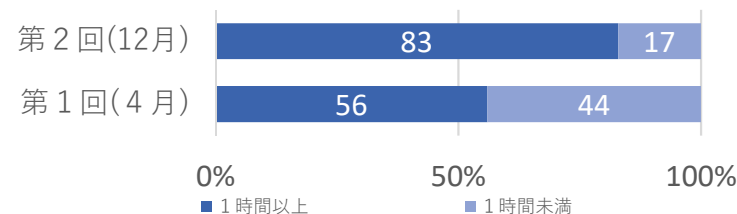
日付	学習した教科	学習時間	学習内容	生活内容
7月26日 火	国語	1時間	読書	読書
7月26日 水	英語	1時間	単語学習	読書
7月27日 木	数学	1時間	計算練習	読書
7月28日 金	理科	1時間	実験	読書
7月29日 土	社会	1時間	歴史学習	読書
7月30日 日	総合	1時間	総合学習	読書
7月31日 月	国語	1時間	読書	読書
8月1日 火	英語	1時間	単語学習	読書
8月2日 水	数学	1時間	計算練習	読書

【長期休業中の学習と生活の記録】

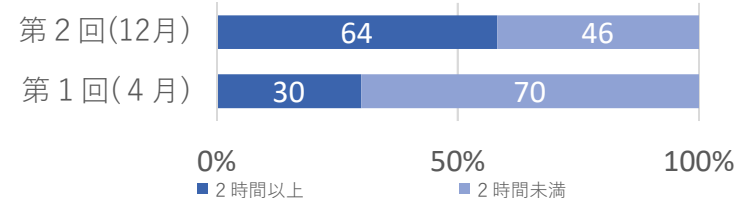
■ 生徒の変容

- ・4月実施の全国学力・学習状況調査の生徒質問紙及び12月実施の生活アンケートにおいて、「平時に1時間以上家庭学習する」「土日に2時間以上家庭学習する」と回答した第3学年生徒の割合が平日で27%、土日で34%増加するなど、長期休業中の学習習慣確立の取組や端末を活用した学習アプリの活用などの成果が見られた。
- ・教科アンケートにおいて、「ICT端末の持ち帰りは、学習習慣・生活習慣確立に役立つ」と回答した全生徒の割合が各教科で増加し、生徒が端末持ち帰りの成果を実感することができた。

「平日の家庭学習時間」(第3学年)



「土日の家庭学習時間」(第3学年)



北広島市立西の里中学校

全校生徒数： 194名 実施学年：全学年

端末持ち帰りモデル

デバイス : Chromebook
OS : ChromeOS
学習eポータル : まなびポケット
アプリ : Google Workspace for Education

■ 取組の方法

- ・長期休業中に、昨年度まで紙面で取り組んでいた休業中の計画表及び学習記録を「Forms」を使って毎日記録させた。
- ・各教科担任が作成した課題を「Classroom」に配信するとともに、共同編集者である全教員が、生徒たちの記入内容や課題の正答率、誤答の内容など、生徒の学習状況を把握した。
- ・教員は、生徒の実態に応じて、課題の内容を修正したり、追加したりした。
- ・長期休業中において、「Classroom」のコメント欄を活用して生徒からの質問について教員がアドバイスをした。
- ・校内研修において、端末の持ち帰りにより、生徒の学習の課題を見取れることや、課題のアドバイスやヒントを追加発信できること、達成率を客観的な数値ですぐに把握できることなど、活用方法のよさについて共通理解を図った。

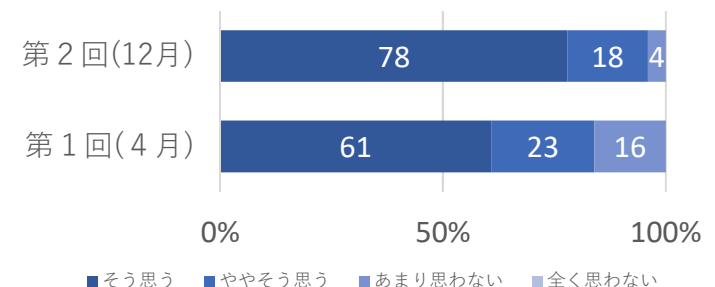
	2. 今日の起床時間	3. 今日の学習内容と学習時間を記入してください。
2023/12/23	1899/12/30 7:30:00	英単語の練習、英語のスピー
2023/12/24	1899/12/30 7:00:00	国語の和歌、英語の教科書
2023/12/25	1899/12/30 7:00:00	英語の単語、スピーチ、対話
2023/12/25	1899/12/30 6:00:00	学習ワーク、国語練習
2023/12/26	1899/12/30 6:00:00	英語のスピーチ、単語、教科
2023/12/27	1899/12/30 6:45:00	英語のスピーチ、単語、教科

【長期休業中の学習と生活の記録】

■ 生徒の変容

- ・12月に実施した全校生徒対象の生活アンケートにおいて、「ICTを活用した家庭学習は、学力向上に効果があると思う」と回答した生徒の割合が、4月の61%から78%に増加した。
- ・「学力向上に効果がある」と回答した理由について、「自分の答えが合っているか間違っているかすぐにわかる」、「効率がよい」、「先生に質問することができる」など、生徒が端末持ち帰りのよさを実感することができた。

「ICTを活用した家庭学習は、学力向上に効果があると思う」



小樽市立銭函中学校

全校生徒数：198名 実施学年：全学年

端末持ち帰りモデル

デバイス : Chromebook
OS : ChromeOS
学習eポータル : 実証用学習eポータル、学びポケット
アプリ : ミライシード、
Google Workspace for Education

■ 取組の方法

- 「ミライシード」を活用した自律的な学び
 - ・退職教員等外部人材を活用した「放課後自習室」による指導
 - ・日常的な端末の持ち帰りによる自分のペースにあった学習の確立
 - ・「Meet」を活用した学習相談の実施（長期欠席者への支援）
- 「フォーム」や「スライド」、「スプレッドシート」を活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実
 - ・「フォーム」による小テストを実施し、解き直しを可能にすることで、自ら学ぶ姿勢を育成
 - ・「スライド」や「スプレッドシート」を活用して他者と考えを共有することにより、深い学びを実現
- 長期休業期間の端末の持ち帰り
 - ・端末を活用した課題の取組
 - ・「夏の自習室」「冬の自習室」での活用
- 欠席者、臨時休業中の授業配信
 - ・「誰一人取り残さない」学校・学級づくり
 - ・生活リズムの確立



【退職教員等外部人材による放課後指導】

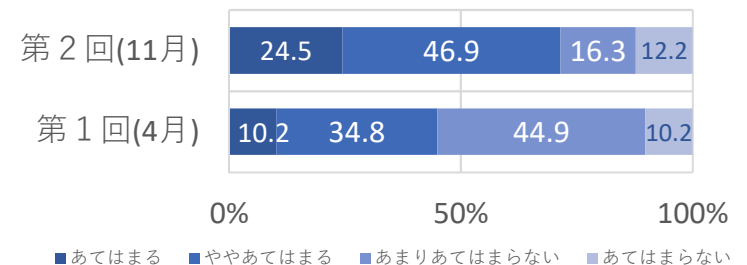
実施日～実施日/学年	時間	人数	授業名
2023年11月17日～2023年11月17日 Good Night: Sleep Tight	0:07 (0:11)	20 (39名)	
2023年11月16日～2023年11月17日 Bentos Are Interesting!	0:24 (0:21)	80 (70名)	
2023年11月16日～2023年11月16日 ハンバーガーショップへ行こう	0:00 (0:00)	5 (5名)	

【端末による取組状況の把握】

■ 生徒の変容

- 放課後自習室への参加数（1日あたりの平均参加数）
6月は17.5人であったが、11月は20.7人に増加した。
- 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか（120分以上の割合）
4月は20.4%であったが、11月は45.2%に増加した。

自分で家で計画を立てて勉強していますか



函館市立桔梗中学校

全校児童数：535名 実施学年：全学年

端末持ち帰りモデル

デバイス : Chromebook
OS : ChromeOS
学習eポータル : L-Gate
アプリ : ミライシード

■ 取組の方法

○ 家庭と連携し、学習アプリ「ミライシード」を活用した家庭学習を支援する取組

(1) 1学期

- ・校内ICT委員会で作成した端末持ち帰りのルールを全職員で共有するとともに、保護者へ周知
- ・保護者協力の下、夏季休業期間中に、学習アプリ「ミライシード」を活用した家庭学習を支援

(2) 2学期

- ・日常的な端末の持ち帰りを開始するとともに、生徒一人一人に応じた自主学習に向けた働きかけ
- ・蓄積されたスタディログ(学習履歴)により生徒の学習状況を把握

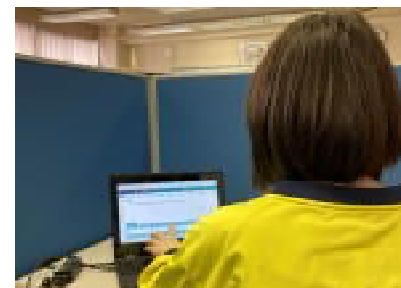
(3) 3学期

- ・スタディログ(学習履歴)に基づき生徒一人一人に応じた家庭学習の工夫改善に向けた指導助言

家庭学習等に活用するための端末の持ち帰りについて

日頃から本校の教育活動にご理解・ご協力を賜り感謝申し上げます。
全国的な調査結果から学習用端末を持ち帰って過剰で利用できるような学校の方が持ち帰らせていない学校に比べて平均正答率が高い傾向があり、家で自分で計画を立てて勉強している生徒ほど各教科の平均正答率が高い傾向にあり、一方で、授業以外の学習時間が1時間以上勉強をする生徒の割合が全国に比べ低い状況にあることがわかりました。
そこで本校においても、学習用端末等で函館市教育委員会が導入している学習支援ツール「ドリルパーク」等を活用するなどして家庭学習の習慣の定着を目指し学習用端末等を持ち帰ることいたしましたので、学習用端末を利用する場合は、別紙の約束を守ることや、端末を忘れた場合は学校での学習に支障がでることから、必ず充電して登校時には持参するようご家庭でもご理解・ご協力をお願いいたします。

【端末の持ち帰りについて保護者へ周知】



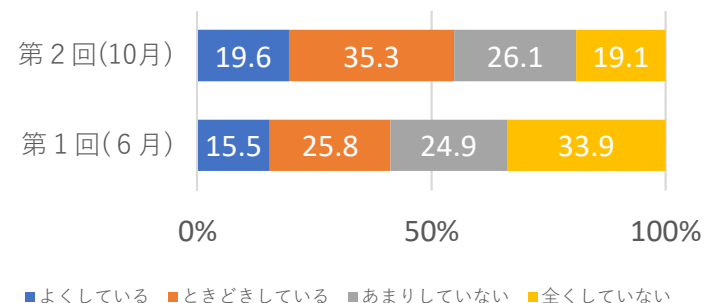
【端末を活用した自主学習】

■ 生徒の変容

家庭と連携し、クラウドを活用した家庭学習の支援を行ったことにより、「家で、ICT機器を使って勉強していますか」のアンケート項目において、肯定的な回答をした生徒の割合が、6月と比較して10月では13.6%上昇した。

生徒が、スタディログ(学習履歴)を活用して学習状況を把握し、自主学習に取り組むことにより、学習習慣の定着を図ることができた。

「家で、ICT機器を使って勉強していますか」



七飯町立七飯中学校

全校生徒数：288名 実施学年：全学年

端末持ち帰りモデル

デバイス	: Chromebook
OS	: ChromeOS
学習eポータル	: L-Gate
アプリ	: Google Workspace for Education

■ 取組の方法

○ 日常的な1人1台端末の持ち帰りによるクラウドを活用した生活習慣や家庭学習の支援をする取組

(1) 生徒一人一人に応じた生活習慣や学習への支援

- ・クラウドを活用した授業配信や学習課題等の配信、生徒から提出された課題への即時のフィードバックを行うなど、生徒の学習意欲の向上を図る
- ・「Forms」を活用し、夏季休業期間中の生活の様子や学習時間を可視化することにより、生活習慣・学習習慣の改善を促進

(2) 日常的な端末の活用

- ・各教科等の授業において、端末を活用し、発表資料の共有や、共同編集の場面を位置付ける
- ・「Meet」を活用し、教室の授業や体育館での集会等を別室登校生徒に配信



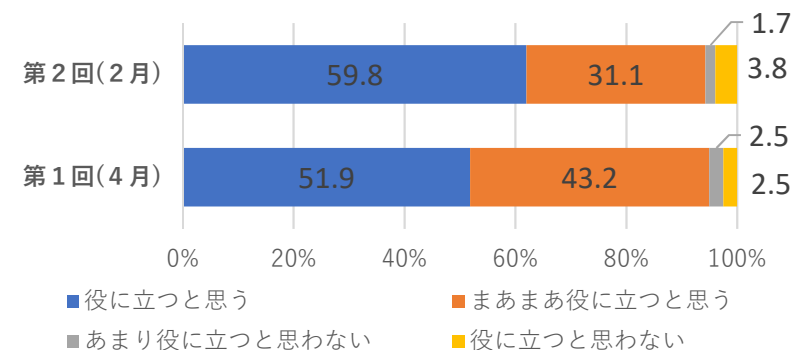
【授業配信による学習支援】

■ 生徒の変容

日常的に端末を持ち帰らせ、継続的な学習支援を行ったことにより、「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う」と回答をした生徒の割合が4月と比較して、2月では7.9%上昇した。

端末を活用し、学校と家庭や、別室をつなぎ、生徒同士が交流する機会を確保したことにより、不登校生徒及び別室登校生徒の帰属意識が高まった。

「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」



美瑛町立美瑛中学校

全校生徒数：220名 実施学年：全学年

端末持ち帰りモデル

デバイス : Chromebook
OS : ChromeOS
学習eポータル : L-Gate
アプリ : eライブラリ、ロイロノート、
Google Workspace for Education

■ 取組の方法

1 端末持ち帰り学習支援

「ロイロノート」、「Classroom」等を活用して授業記録等を振り返り、家庭での復習に活用

2 自己のスケジュール管理

見通しをもって学習や生活に臨むことができるよう「カレンダー」を活用して、学習（テスト・提出物期限等）等を入力

3 「eライブラリ」の活用

授業の復習や到達度・学力テスト対策、高校受験に向けた学習等、学校や家庭での「隙間時間」に幅広く活用

■ 生徒の変容

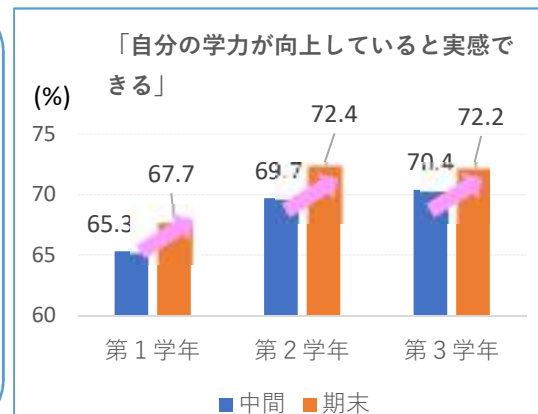
- 自ら進んでスケジュールを管理したり、eライブラリを活用したりする生徒が増加
- 生活リズムチェックにおいて、「学習時間」、「睡眠時間」、「朝食摂取」の項目で、およそ40%の生徒が改善の成果を実感
- 学校評価では、「自分の学力が向上している」と実感できた生徒の割合が、全学年で増加

期日	1/25 木	1/26 金	平均	項目
予定				
①就寝時刻(前日の)	21時	21時		7時間15分=7.25 7時間30分=7.5 7時間45分=7.75
②起床時刻	7時	7時		自己評価(選択): 翌週月曜日に入力
③睡眠時間	9	10	9.3	睡眠十分
④学習時間(授業以外、学習動画・練習含む)	2	1	1.4	学習十分
⑤運動時間(部活動含む)	2	2	1.6	運動十分
⑥ゲーム、動画(趣味)の視聴時間	1	3	1.4	少し視聴時間が長い
⑦朝ごはんの摂取				

【生活リズムチェック表】

4 自己の生活リズムチェック

毎月の特定の1週間を「チェック週間」とし、端末に入力することを通して、自己の家庭での生活状況の振り返りを実施



帯広市立帯広第八中学校

全校生徒数：425名 実施学年：全学年

端末持ち帰りモデル

デバイス : Chromebook
OS : ChromeOS
学習eポータル : 実証用学習eポータル
アプリ : Google Workspace for Education

■ 取組の方法

○生徒が、「Classroom」を活用し、日々の授業の復習や振り返りなどを家庭で行う取組

- ・クラウド上で共有した各教科の学習計画を生徒が家庭で確認できるようにすることにより、見通しをもちながら授業の振り返りを行ったり、復習する内容を選択したりできるように工夫
- ・家庭学習の取組を「Classroom」に提出することにより、教師が生徒一人一人の取組を短時間で把握するとともに、即時的なフィードバックができるように工夫

○不登校生徒への学習支援

- ・Meetを活用し、希望生徒が放課後に接続できるようにすることにより、家庭学習のサポートや、授業内容の補習等を実施

○長期休業中の取組

- ・生徒の自主的な参加となるよう、対面とオンラインを選択できるハイブリットによる学習会を開催し、家庭学習の支援を実施

学習活動	振り返り
①「理由づけ」の3要素 例) 授業テストの点数が悪かった。 原因→勉強しなかったから。 改善→いい点数を取れるように勉強しよう。 学習法→授業→作業→発表 検定法→事実→感想→主張	②内ロシッケー事実(データ)、感想(理由づけ)、主張(結論) 例) 事実→テストの点数が悪かった。 原因→勉強しなかったから。 改善→いい点数を取れるように勉強しよう。 学習法→授業→作業→発表 検定法→事実→感想→主張
③「理由づけ」の3要素 例) 「理由づけ」の3要素 ①「理由づけ」による分析の仕方	④内ロシッケー事実と主張を組みつけ、主張に説得力をもたせる方法 事実 → 理由づけ → 感想 → 結論は、「主張」に 説得力をもたせるために重要。 → 例) 「事実」でも「理由づけ」によって正論的な「主張」ができる。

【学習の振り返りの視覚化】

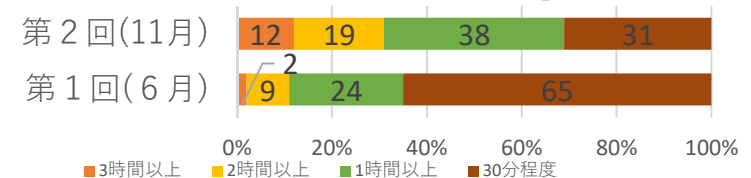


【放課後学習のクラスルーム】

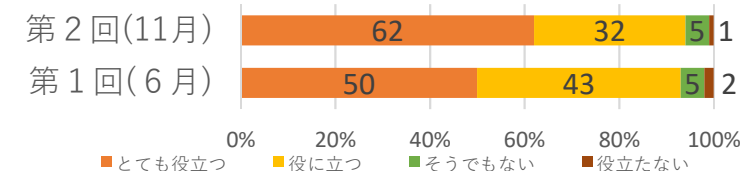
■ 児童の変容

- ・6月と11月に実施した生徒アンケートの結果において、「家庭学習に端末を1時間以上活用している」と回答した生徒の割合が増加するなど、家庭学習における端末活用の習慣が身に付いてきている。
- ・「家庭で端末で学習するのは役に立つと思うか」の設問について、肯定的な回答をする生徒の割合が増加するなど、生徒自身が端末を活用した学習に効果を感じていることが明らかとなった。

「家庭学習における端末活用時間」



「家庭で端末で学習するのは役に立つと思うか」



釧路市立景雲中学校

全校生徒数：557名 実施学年：全学年

デバイス : Chromebook
OS : ChromeOS
学習eポータル : L-Gate
アプリ : Google Workspace for Education

端末持ち帰りモデル

■ 取組の方法

① 取組のねらい

端末の持ち帰り及び端末を活用した取組の推進を通して、日常の授業内容と関連した家庭学習環境を整え、自主・自律的な学習習慣の確立を図る。

② 実施内容

授業や家庭学習における組織的な「MEXCBT」の利活用

③ 実施方法

- ・家庭学習の課題として、国語・数学・社会・英語・理科の5教科で「MEXCBT」を活用
- ・生徒一人一人の家庭学習の記録を基に、各教科担任が定着状況を確認し、授業改善を実施
- ・全教員を対象とした「MEXCBT」活用に係る研修会を実施
- ・各教科担任が、授業との関連を踏まえた家庭学習課題を検討

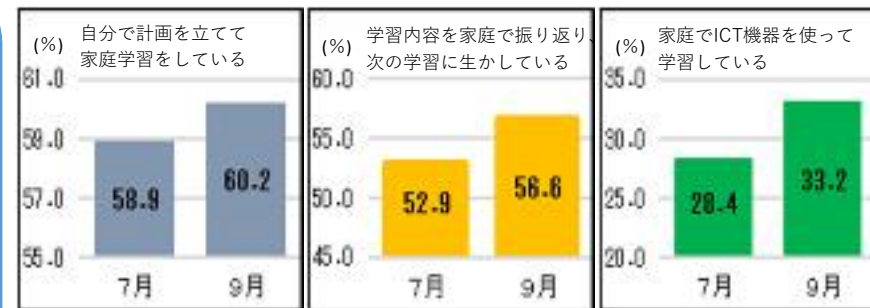


【授業で「MEXCBT」を活用して学ぶ生徒の様子】

■ 生徒の変容

- ・「MEXCBT」の活用による授業内容と関連した家庭学習を実施したことにより、「自分で計画を立てて家庭学習をしている」「学習内容を家庭で振り返り、次の学習に生かしている」と回答する生徒の割合が増加するなど、自主・自律的に学習する生徒の様子が見られた。
- ・端末の持ち帰り及び端末を活用した取組を推進したことにより、「家庭でICT機器を使って学習している」と回答する生徒の割合が増加するなど、ICTを用いて自主・自律的に学習する生徒の様子が見られた。

【学習アンケートの結果】



「よくしている」「ときどきしている」と回答した生徒の割合の推移

「している」「どちらかといえばしている」と回答した生徒の割合の推移

「よくしている」「ときどきしている」と回答した生徒の割合の推移

釧路市立美原中学校

全校生徒数：142名 実施学年：全学年（希望者）

端末持ち帰りモデル

デバイス : Chromebook
OS : ChromeOS
学習eポータル : L-Gate
アプリ : ロイロノート、
Google Workspace for Education

■ 取組の方法

① 取組のねらい

端末の持ち帰り及び端末を活用した取組の推進を通して、生徒一人一人の学習進度や興味・関心に応じて学ぶ環境を整え、自主・自律的な学習習慣の確立を図る。

② 実施内容

希望する生徒(不登校または不登校傾向が見られる生徒を含む)を対象とした、端末を活用した放課後学習の実施、放課後自習室の開設

③ 実施方法

- ・退職教員等外部人材講師による放課後学習の実施
- ・「ロイロノート」を用いた受講者への課題提示及び提出された課題へのフィードバック
- ・「Meet」を活用したオンライン学習の実施
- ・生徒の登校状況や学習進度に応じた職員間及び家庭との連携



【「ロイロノート」を用いた課題提出】

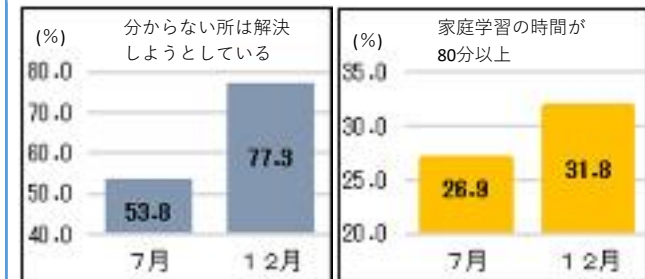


【教員によるフィードバック】

■ 生徒の変容

- ・クラウドを用いて、受講者への課題提示及び提出された課題へのフィードバックを実施したことにより、「分からない所は解決しようとしている」と回答する生徒の割合が増加するとともに、疑問について教員へ質問をする生徒が多く見られるようになるなど、生徒が自らの学びを調整しつつ自主・自律的に学習することにつながった。
- ・端末を活用した放課後学習の実施及び放課後自習室の開設を行ったことにより、「家庭学習を80分以上している」と回答する生徒の割合が増加するとともに、自己の学習計画を改善しようとする生徒の姿が見られ、生徒の家庭学習の充実及び学習習慣の確立につながった。

【学習アンケートの結果】



※「ほぼ全ての教科でしている」「そうしている教科が多い」と回答した生徒の割合